

講座案内

品質保証・品質管理の現状と今後の展望

第 65 回白石記念講座

▼ 2013年11月29日(金) (東京)

主催(一社)日本鉄鋼協会

講座の視点

日本鉄鋼業の基盤として、鉄鋼製品の評価を支えてきた品質保証・品質管理は、1990年代半ば以降、「JIS-ISOの整合化」および「日本国内での企業活動におけるISO9001などのマネジメントシステム認証取得重視の流れ」に影響を受け、その仕組みは大きく変化してきた。本講座では、大きな変化をとげた現状の品質保証・品質管理について解説した上で、自動車の品質保証の事例と鉄鋼製品の品質管理の基礎技術である非破壊検査の進歩の観点をふまえて、今後も品質保証・品質管理が日本鉄鋼業の基盤であり続けるために進むべき方向について戦略的な視点から展望する。

協賛: (公社)応用物理学会、(公社)化学工学会、(公社)計測自動制御学会、(一社)鋼管杭・鋼矢板技術協会
(50音順) (一社)資源・素材学会、(公社)自動車技術会、ステンレス協会、線材製品協会、(一社)電気学会、
(一社)特殊鋼倶楽部、(公社)土木学会、(一社)日本アルミニウム協会、(公社)日本化学会、(一社)日本機械学会、
(一財)日本規格協会、(公社)日本技術士会、(公社)日本金属学会、(一社)日本建築学会、(一社)日本鋼構造協会、
日本材料科学会、(公社)日本材料学会、日本材料試験技術協会、(一社)日本自動車工業会、
(一社)日本自動車部品協会、(一社)日本塑性加工学会、日本中性子科学会、(公社)日本適合性認定協会、
(一社)日本鉄鋼連盟、(一社)日本熱処理技術協会、(一社)日本非破壊検査協会、(一社)日本非破壊検査工業会、
(一社)日本品質管理学会、(一財)日本品質保証機構、(公社)日本分析化学会、(一社)日本溶融亜鉛鍍金協会、
(一社)表面技術協会、品質工学会、(社)腐食防食学会、(独)物質・材料研究機構、(一社)溶接学会

1. 日時・場所 2013年11月29日(金) 9:30~16:55 受付時間 8:45~16:15
(東京) 早稲田大学 西早稲田キャンパス 63号館2階大会議室 (東京都新宿区大久保3-4-1)

2. 講演題目・講演者、司会者

司会者: 寺澤 富雄 (新日鐵住金)

9:30~11:00 「鉄鋼の規格論—新たな理念で拓いた鉄鋼 JIS の国際化—」 ISO/TC17 議長 前原 郷治

12:00~13:10 「第三者適合性評価制度の戦略的活用」 日本適合性認定協会顧問 井口 新一

13:10~14:10 「標準化を巡る最近の動向」 経済産業省産業技術環境局産業基盤標準化推進室長 山本 健一

司会者: 櫛田 宏一 (JFEスチール)

14:30~15:45 「トヨタの品質保証と鉄鋼メーカーへの期待」 トヨタ自動車(株)品質保証部長 宮本 眞志

15:45~16:55 「鉄鋼製品の品質を支える非破壊検査技術」
新日鐵住金(株)技術開発本部プロセス研究所計測システム研究開発部長 藤原 弘次

3. 講演内容

1) 「鉄鋼の規格論—新たな理念で拓いた鉄鋼 JIS の国際化—」

前原 郷治

規格の話をする。規格—所謂コンセンサス規格—は、19-20世紀の変わり目に米国で発行されたのが始まりで、それは鉄鋼製品の規格であった。つまり、規格は鉄鋼から始まったのである。規格は、理念の産物である。規格は経年劣化し改正が必要だが、理念は錆つかない。100年後の20-21世紀の変わり目には、建築用鋼材、自動車用鋼板規格など重要な規格が開発される一方で、JIS-ISO 整合化という重大課題に対応した時期である。この時の活動を取りあげて、規格について、また理念について語ることにする。

2) 「第三者適合性評価制度の戦略的活用」

井口 新一

我が国における ISO 規格に基づく第三者適合性評価制度の開始から約 20 年が経ち、ISO 9001 などの認証を取得している企業も数多い。しかし、これまでの我が国の第三者適合性評価制度に対する取り組みは、認証取得を企業活動に生かすにとどまり、制度そのものを優位性の提示や競争力強化に戦略的に活用する観点が不足していたといえる。今回は、制度そのものの活用、特に産業界特有の追加要求事項を付加した適合性評価制度(航空宇宙・食品などすでに展開)を構築する主体となる「スクーム・オーナー」の導入など、新しい観点から第三者適合性評価制度を捉えなおす。

3) 「標準化を巡る最近の動向」

山本 健一

我が国産業のグローバルな市場展開のためには国際標準が重要であり、経済産業省としては、国際標準獲得の重要性を経済産業政策の大きな柱と位置づけて、各種施策を展開している。特に、公共財的標準化と共に、企業の利益に繋がる標準化の普及に取り組んでおり、これは標準と知的財産とを絡ませてオープン/クローズ戦略を構築して企業の利益に繋げようというものである。本講演では、標準化の事例、国際標準化を巡る動向とともに標準化政策の中から、前述の「企業利益に繋がる標準化」、迅速な国際標準提案を可能とする「トップスタンダード制度の創設」、国際会議での議論をリードできる「国際標準交渉人材育成」などについて紹介する。

4) 「トヨタの品質保証と鉄鋼メーカーへの期待」

宮本 眞志

お客様による製品使用の長寿命化に伴い、より耐久性、信頼性の高い製品品質が求められている。また、近年は消費者庁発足等、製品品質に対する目が日増しに厳しいものとなってきている。こうした世の中の環境、またお客様の考え方や期待値が変わってきている中、製品である自動車も、より安全で、より安心される、いいクルマづくりが求められている。本講演では、自動車メーカーの品質保証の一例として、弊社が創立以来、企業として大事にしてきた変わらぬ品質の考え方、また直近での一連の品質問題における企業として学んだ教訓を紹介する。さらに、お客様満足を実現するために、品質問題を発生させないための未然防止活動、万が一問題が起きたときにおける早期問題解決、再発防止活動を紹介するとともに、鉄鋼材料の品質保証に関して、事例を元にした取り組み、及び、鉄鋼メーカーへの期待について述べる。

5) 「鉄鋼製品の品質を支える非破壊検査技術」

藤原 弘次

鉄鋼製品は自動車、エネルギー、インフラ、家電分野などで大量に使用されている。また求められる性能や、使用される環境もますます厳しくなっている。そのため大量生産の中でも高い品質が要求され、それに呼応して非破壊検査技術も高精度化が進んできている。とくに電子デバイスやコンピュータの高速化にともない、処理のデジタル化ならびに大量のデータ処理が可能となっており、センサの高性能化と合わせて高度な検査技術が開発されている。本講義では、主にオンラインで使用される非破壊検査技術の概要とともに検査技術の高精度化を実現している最近の開発事例について紹介するとともに、今後の期待について述べる。

4. 事前申込み：不要

5. 参加費（税込み、テキスト付）：

会員(含協賛団体個人会員) 8,000 円、一般 15,000 円、学生会員 1,000 円、学生非会員 2,000 円

※会員割引は個人の会員のみ有効です。受付で本会会員証あるいは協賛団体の会員証をご提示下さい。

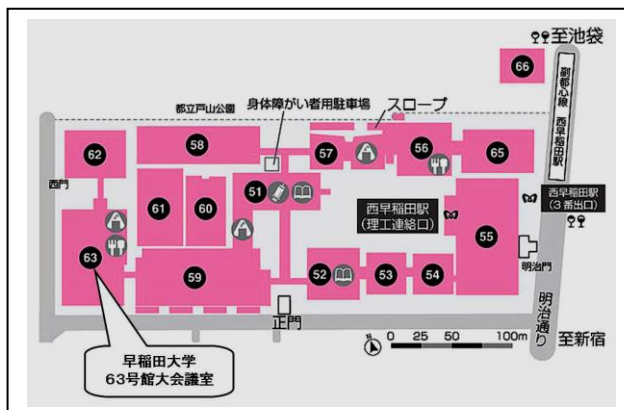
※当日入会手続きは中止いたしました。会員資格による参加をご希望の方は、あらかじめ入会手続きを済ませますよう、お願いいたします。

★テキストは、講座終了後（2013年12月4日以降）残部がある場合、会員8,000円、一般15,000円で販売いたします。テキスト購入のお申込みは、本会の販売委託先である（株）OCSへ直接ご連絡下さい。

（株）OCS 連絡先：TEL. 03-5476-8108 FAX. 03-5476-5860 E-mail: subsales@ocs.co.jp

〒108-8701 東京都港区芝浦 2-9-13

問合せ先：（一社）日本鉄鋼協会 学会・生産技術部門事務局 育成グループ 檜岡
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館 5階
TEL: 03-3669-5933 FAX: 03-3669-5934 E-mail: educact@isij.or.jp



(会場案内)

早稲田大学 西早稲田キャンパス

63号館2階大会議室

(東京都新宿区大久保 3-4-1)

JR線：高田馬場駅より徒歩 15 分
西武線：高田馬場駅より徒歩 15 分
地下鉄：副都心線西早稲田駅直結、東西線早稲田駅より徒歩 22 分
<http://www.waseda.jp/jp/campus/nishiwaseda.html>